

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	36 / 2015 / 4 - 9 (再編集版)
タイトル	ドイツの Naturgarten の作り方
著 者 名	小山内孝

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

ドイツの Naturgarten の作り方

元顧問 小山内 孝

はじめに

2013年発行の「やぶなべ会報」32号に「ドイツの自然と街とビオトープ」という題で、写真を中心に、報告を書きました。

本稿は、昨年7月13日～20日まで、ミュンヘン中心のビオトープ作りを見学し、ドイツの Naturgarten(自然園と言っている)を、ライハルト・ヴィット博士著作「NaTUR fur jden GARTEN」と彼の園庭、案内、著作の写真解説を中心に、その作り方を簡潔に述べます。

ビオトープ作りで留意すべきこと

1. ビオトープを作ろうとするその地域の自然誌をよく知ること

まず、その地域の植物や動物の生息状況をよく調査し、知ることです。

そして、過去がどうであったかも知ることです。

破壊されて来たその地域の自然再生化及び、高低差や湿地等の地形地質の多様化を図ります。

そして、もっと広いその地域の生物とのネットワーク化を目指します。*2階の屋根の上に地域の土をそのまま放置(写真④)

《参考写真. Naturgarten の案内風景と園庭ビオトープ ①～⑫》

2. 多様な変化のある環境作りを行う

・砂、岩石、土、土壌等の地質の多様性作りを行う

・岩、高度差

・湿地、池沼の川の流れ

・光の当たり方等の変化をつける

《参考写真. ビオトープの作り方 ①～⑦》

3. 各家の周りも道路の分離帯もビオトープ化し、地域の花の咲く植物の種子を蒔きっぱなしにしたり、ポット苗を植え、ビオトープ化しています。

《参考写真. ビオトープの作り方 ①～④》

4. 具体的な生物の配置

a. その地域の種子から植物、草木のポット苗作り

実生からの苗作り

b. その地域の木々の植栽

c. 鮮苔類の配置

d. 風倒木などの配置

e. 落葉を積み込む、粗朶(そだ)積み地域の樹木

(ムカデ、ヤスデ、ミミズ、カブトムシ等の生息場)

f. 丸太積み 地域の樹木を数束束ね、ねかせておく

g. 石積み 割石を30～40cmのものを積み上げる

h.蜂宿

5. 近所の地域からの移入

6. 最後に大事なことは、①ビオトープの植物、動物を観察し続けることと、手入れをし続けること、記録をとり続け(写真を含む)、残しておくことです。②帰化植物と帰化動物を排除することです。

Naturgartenの案内風景と園庭ビオトープ



① 私(ヴィット博士)の自然の庭の看板



② 案内する ヴィット博士



③ ヴィット博士の著作



④ 博士の2階建ての家 2階の屋根も庭になっている



⑤ 2階の太陽光発電



⑥ 地域の川とつながっている



⑦ イモリも棲息している池



⑧ 広がるスイレンヴィット



⑨ 博士の植物案内



⑩ 石垣を積んだビオトープ



⑪ イボタに似た花



⑫ ヤブカンゾウに似た花

【ヴィット博士の園庭ビオトープの変化】



ビオトープの作り方

1. 地域の自然とネットワーク



① 保育園の父母総出のビオトープ作り 穴やトンネル、風倒木なども配置し、多様な地形



② その地域にあった、小川も取り入れたビオトープ作り



③ ポット苗からの植栽から数年経過



④ ポット苗の植え込み



⑤ ビオトープ作りから数年後の写真。地域の自然と一体となっている

2. 池





⑥ ヴィット博士のビオトープ / 池作り



⑦ ヴィット博士のビオトープ / 池の修復

ビオトープ化した花壇・中央分離帯



① 地域の植物の花の種子を蒔く



③ 生育経過



② 生育経過



④ 家や道路周辺のビオトープ化